

## 初議会（休憩中）での所信表明（議長を志す方）

19年9月1日（土）

### 1. 加藤雅行議員

このたびの福島町議会議員選挙により、選ばれた議員による議会の議長を目指すべく、その所信を表明いたしたいと思います。

この何年間、いや厳密には8年近く福島町議会は行政のチェック機能であることを最大の旗印にしてきた感がございます。そのこと自体は、確かに議会でいちばん大切なことでございます。

しかし、それだけではどうでしょうか。町の発展、町民の幸せを願い、町民が将来に夢と希望を持てるまちにするためには、行政と協力をするべきものは協力をし、両輪となって町民の負託に応えるべきではないのでしょうか。それゆえ、このたびの選挙は投票者3,790人の1人、1人の方から大切な一票を皆様方は町民1人、1人の声としてお聞きし、そしてその思いを胸にさきほどの自己紹介の中でも活動をされると力強い表現をされていたと思います。

私はそのような力強い皆様の言葉を、力を最大限に尊重する議会をつくっていきたいと思います。長期にわたり、同じ方がその座にあるときに力は集中し、本当に考え方に変化はあるのか。そしてまた、そのことによる組織は硬直化するのではないのでしょうか。ある意味では偏った形になる可能性があります。

行政を取り巻く環境は年々厳しく、いずれ町村合併も視野に入っております。この福島町にとって、現実に急がれることは広域事務組合で関係する四町がいかに良好な関係の中でいろいろなことについて協議をするべきではないのかなと私は思います。

特に、四町の議会は協議会をつくっており、そういう意味でも先頭を切ってこのことに対して進んでいくべきだと思います。さきほどのお話で村田町政は、自立プランを町民の方々とともに作り、財政破綻を防ぐべく努力をしているというふうなお話がありました。その痛み、苦しみに町民は必至に耐えております。その頑張る町民に対して、議会は単に議会、議員のための開かれた議会をつくっているだけでは、私は本当に議会であるかどうかと思っています。

町民とともに、町民のために本当に開かれた議会づくりを目指すことを私はお約束し、私に対するご協力をいただきますことを真にお願いをいたしまして、あいさついたします。